Hazama

発達障害とは何か

2026.07作成





遠矢 勇輝 ／ YUKI TOYA

◯早稲田大学法学部卒業（2025年3月）
◯政策立案団体(学生団体GEIL)で教育格差の政策策定
◯子どもの貧困関連の団体(若者団体komurado)設立
◯様々な教育・福祉現場で5年間活動
◯発達障害グレーゾーン（自閉症）の妹をきっかけに
2025年5月より事業開始
⇨発達障害グレーゾーン児童生徒の学習環境不足と
それに伴う自立困難

①経済産業省・日本貿易振興機構（JETRO／ジェトロ）共催 J-StarX「ゼロイチ」2期
②東京都主催スタジオプログラム「TOKYO Co-cial IMPACT」2期
③ANRI主催起業支援プログラム「STARTLINE」1期
④taliki×京都リサーチパーク主催 起業家支援プログラム「COM-PJ」6期
⑤日本経済新聞社主催「NIKKEI THE PITCH SOCIALBUSINESS SCHOOL」2期
⑥ANOBAKA主催「ANOBAKA U-25 AI Accelerator」
⑦ETIC主催「MAKERS UNIVERSITY」11期
⑧東京都・東京理科大学アクセラレーションプログラム「TUSIDE EAP」





心の理解も、進学も。
MICHIBIKIゼミ

自立支援 × 進学支援
ハイブリット型学習塾

療育でも進学塾でもない、新しい選択肢。



学習支援（教育） 大手塾 個別指導塾 家庭教師



発達障害グレーゾーン児童生徒に合う
教育環境がなかなか見つからない

自立支援（福祉） LITALICO ジュニア 運動療育 放デイ

心の理解も、進学も。
MICHIBIKI



私たちの存在意義 -Mission-

“はざま”に、灯（ともしび）と言葉を。

目指す世界 -Vision-（社会）

公平に切磋琢磨できる社会を共創する

目指す世界 -Vision-（個人）

尊厳を守ることを通じて誰もが自分の可能性
を最大限発揮できる世の中をつくる

心の理解も、進学も。
MICHIBIKI

発達障害の理解と、子どもへの関わり方

～ 青空サイエンス教室に参加する子どもたちと、よい2日間を過ごすために ～

こんにちは、**株式会社Hazamaの遠矢**と申します。
ふだんは、発達に特性のある子ども一人ひとりに合った『学び方』を設計する仕事をしています。

今日の全体像

1. **第1部**　発達障害とはどのようなものか
2. **第2部**　どう関わるか（総論）
3. **第3部**　青空サイエンス教室での具体的な関わり方
4. **第4部**　起こりそうな行動を予測して備える

今日いちばん覚えて帰っていただきたいこと

発達特性は
「本人の努力の問題」ではなく、
「環境との噛み合わせの問題」

この視点を軸に、子どもたちと安心してよい2日間をつくるための考え方を共有します。

【第1部】発達障害とはどのようなものか

心の理解も、進学も。 MICHIBIKI

1 まず、「怠け」ではありません

- 「あれとこれ、それが終わったら片づけてね」と3つ頼むと、最後の1つしか手をつけない
- さっき言ったことを、もう忘れている
- 順番を待つのが、どうしても苦手

こうした姿は「やる気がない」「わがまま」に見えがちですが、多くは努力ではどうにもならない**“脳の情報処理の特性”**です。

> 発達障害は、生まれつきの脳の特性であり、育て方の失敗でも、性格の問題でも、本人の努力不足でもありません。

「怠け」と「特性」は違う

2 発達障害を理解する3つの大事なこと

① はっきり線が引けない

診断のある子も、ない“グレーゾーン”の子もいる

② 特性は重なり合う

複数の特性を併せ持つのがむしろ普通

③ 同じ特性名でも一人ひとり全く違う

マニュアルより“その子を見る視点”が大切

3 今日の土台になる考え方 —— 社会モデル

困りごとは「その子の中」にあるのではなく、**「その子と環境との“あいだ”」**にあります。
同じ子でも、環境が変わると、困りごとが小さくなり、力を発揮しやすくなることがあります。だから大切なのは、「治す・直す」ではなく、**“どうすればその子が力を出せるか”**を一緒に考えることです。

メガネの例え

度が合っていないメガネだと、見えづらくて疲れてしまう。
→ その子に合った環境が整うと、見やすくなり、力を発揮しやすくなる。

環境を調整することで、子どもの可能性は大きく広がります。

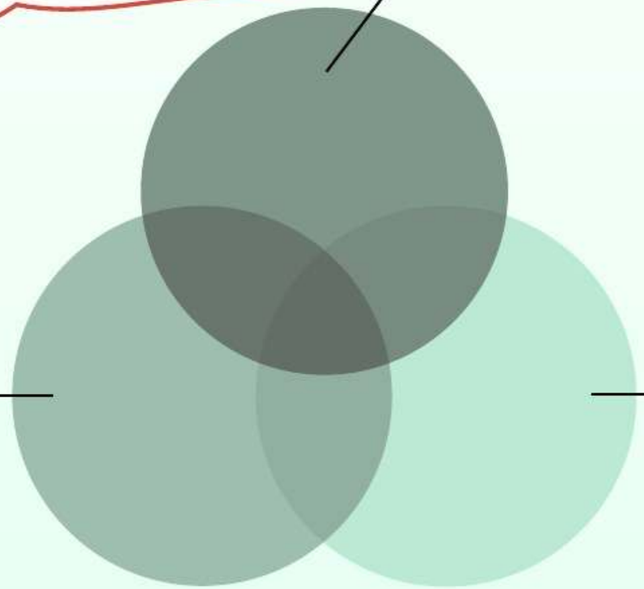
発達障害とは

通常学級に通う小中学生の8.8%
(35人学級で3〜4人)
が発達障害の可能性がある

=

全国の公立小中学校で
70万人超え

もしかして発達特性
があるかも？？



自閉スペクトラム症
(ASD)

コミュニケーションが苦手
対人関係・社会性の障害
こだわりの強さ

注意欠如多動性障害
(ADHD)

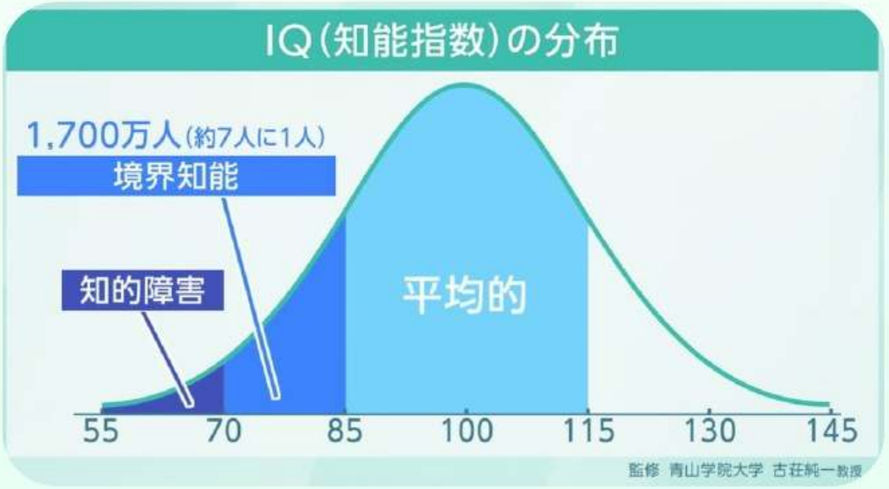
不注意・多動性・多弁性
衝動的な行動

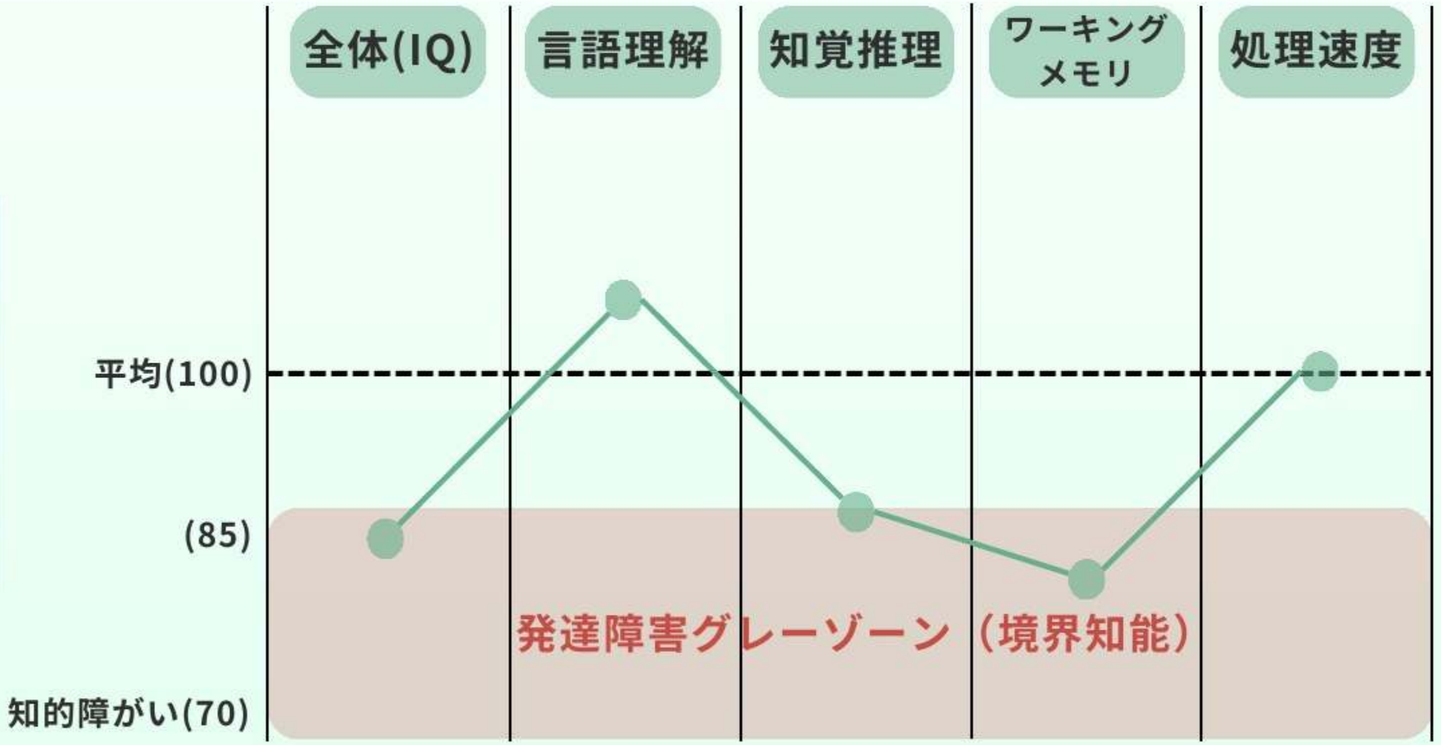
学習障害
(LD)

読み書き計算など
特定の学習に困難がある

文科省『通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について』より

発達障害の「グレーゾーン」とは





【第1部】主なタイプと、本当に注意すべきこと

心の理解も、進学も。 MICHIBIKI

主なタイプと、この教室での「見え方」

タイプ	強み・特徴	この教室での見え方
ASD（自閉スペクトラム症）	**強み**　規則性やパターンへの強さ、深い探究心、正直さ	曖昧な指示が分かりにくい／急な予定変更で不安定／順番や勝ち負けへのこだわり
ADHD（注意欠如・多動症）	**強み**　発想力、行動力、好奇心、瞬発力	順番を待てない／列を離れる／実験を先へ進める／忘れ物が多い
LD・SLD（限局性学習症）	**強み**　考える力そのものは十分	説明の紙が読めない／発表原稿が書けない／「サボっている」と誤解されやすい
DCD（発達性協調運動症）	**強み**　思考や対人関係とは別の課題であることが多い	土器づくりや工作で手先が動きにくい／疲れやすい／転びやすい
境界知能	**特徴**　真面目で努力家の子が多い	一度の説明で理解しきれないことがある／「分かったつもりなはず」と思われ、こっそり困っている

同じ「実験で固まっている」でも、理由は正反対のことがあります。

手順を覚えきれていない ／ 手先が動かない ／ 説明の字が読めない

だから「やる気がない」と決めつけず、まず**“なぜ固まっているのか”**を考えることが入口です。

本当に注意すべきは「二次障害」

- 周囲の無理解や責められる経験が積み重なると、自信が削られていく
- 不登校、気分の落ち込み、強い不安などの二次的な苦しさにつながることがある
- 周りの関わり方で、防ぎやすくなる。たった1泊2日でも、「またダメだった」ではなく**「できた！」**を持ち帰れる場にすることが大切です。

【第2部】発達障害の子どもと、どのように関わるか（総論）

心の理解も、進学も。 MICHIBIKI

ここからは、どんな場面にも共通して効く『関わり方の軸』を共有します。

1 原則①　こちらの「当たり前」を押し付けない

その子には、その子の見え方・感じ方があります。大きな音が痛いほど苦手、字がにじんで見える、いくつも言われると頭が真っ白になる――それは“大げさ”でも“わがまま”でもありません。

→ まず受け止める。否定から入らない。

2 原則②　対話で合意する

一方的に「こうしなさい」ではなく、本人と一緒に決める。

「どうする？」　「これならできそう？」

「じゃあ、ここまでやってみようか」

→ 子どもを“動かす”のではなく、一緒に着地点を見つける。

3 原則③　目に見える形にして、見通しをつける

手順を1つずつ書く、残り時間を示す、今日の流れを絵や文字で貼る。

学ぶ → 実験 → 発表 → ふりかえり

→「あとどれくらい」「次に何が起きるか」が見えるだけで、不安は大きく減ります。

この3つを支える土台 ――「安全な大人」になる

担っていただきたい役割は、実験を上手に教えることでも、発表を成功させることでもありません。「できた／できない」を評価する人ではなく、**「この人の隣は安心だ」**と子どもが思える**“安全な大人”**になることです。

安心できる大人がひとりそばにいるだけで、子どもは本当に力を出します。

【第3部】青空サイエンス教室で、どのように関わるか①

心の理解も、進学も。 MICHIBIKI

場面ごとの具体例：「× やりがち」と「〇 こうするとよい」

場面1：実験・工作 （水のろ過、土器づくり、ロケット製作）

状況	× やりがち	〇 こうするとよい	つながる原則
Ⓐ 手順が分からず固まっている	「何やってるの、早くやろう」と急かす	隣に座って「まず1個目、これをここに置くよ」と、手順をひとつだけ見せる／完成形の写真を1枚置いて、ゴールを見えるようにする	見える化
Ⓑ 不器用でうまく作れず、癇癪を起こしかけている	「みんなできてるよ」と比べる	「今日はここまでで十分。この形、いいね」と着地点を下げる／完成度より“参加できたこと”を拾う	受容
Ⓒ 勝手にどんどん先へ進めてしまう	無理に止める	「じゃあ次はこれをやろう」と、正しい手順に乗せ直す	合意

場面2：集団行動・移動・待ち時間

状況	× やりがち	〇 こうするとよい	つながる原則
Ⓓ 列を乱してどこかへ行ってしまう	後ろから「ダメ！」と大声で止める	出発前に「〇〇くんは先生の隣ね」と、役割と居場所を先に決める	合意
Ⓔ 順番が待てない	「ちょっと待って」だけで済ませる	「あと3人だよ」「時計の針がここに来たらね」と、待つ長さを見える形にする	見える化
Ⓕ 探検で列から遅れる、ぐずる	「早く」と急かす	疲れや感覚の限界のサインとして捉え、まず水分と休憩を先に	受容

【第3部】青空サイエンス教室で、どのように関わるか②

心の理解も、進学も。 MICHIBIKI

感覚・プレゼン・泊まり場面での具体例

場面3・4：感覚（音・暑さ）とプレゼン

状況	× やりがち	○ こうするとよい	つながる原則
Ⓐ ロケットの打ち上げなど、大きな音が苦手	「大丈夫、怖くないよ」と感覚を否定する	「今から大きい音が出るよ。耳をふさいでいいからね」と事前に予告する／離れた場所・耳栓など、選択肢を渡す	受容・見える化
Ⓑ 暑さや虫、ざわつきで急に不機嫌・ぐったりする	わがままだと受け取る	感覚の限界として捉え、日陰や静かな場所で5分クールダウン	受容
Ⓒ プレゼン大会で固まる・話せない・泣いてしまう	「頑張れ、言ってごらん」と注目を集める	「指さしでもいいよ」「先生と一緒に言う？」とハードルを下げる／それも無理なら「見ているだけでも参加」という逃げ道を用意する	合意

場面5：泊まり（食事・就寝・不安）

状況	× やりがち	○ こうするとよい	つながる原則
Ⓓ 偏食で食べられない	「残さず食べなさい」と強いる	「食べられるものだけでOK」とする	受容
Ⓔ 就寝時に眠れない・不安が爆発しそう	突き放す・叱る	消灯前に「夜は先生がここにいるよ」と居場所を伝える	見える化
Ⓕ 親と離れる不安が強い	「もう大きいでしょ」と突き放す	「明日の朝には〇〇するよ」と、この先の見通しを具体的に伝える	見える化

子どもが安心できる「関わり方」は、特別なことではありません。小さな配慮の積み重ねが、子どもたちの「楽しかった！」につながります。

【第4部】トラブル予測 —— どんな行動が見られると予測されるか

起きてから慌てるより、先に予測して備えるほうが、現場ではずっと落ち着いて動けます。

1 プログラムの流れで、こんな行動が出やすい （＝異常ではなく、想定内）

集合・移動（バス）	親と離れる不安、はぐれる、そわそわ、多弁
実験・工作	手順で固まる、勝手に先へ進む、不器用でうまくいかず癇癪
もりもり探検	疲労や転倒、列から遅れる、暑さや虫で不機嫌
ロケット打ち上げ	大きな音で耳をふさぐ、パニック、その場を離れる
スポーツ（バレー）	勝ち負けへの強いこだわり、負けて崩れる、ぶつかる
プレゼン大会	緊張で固まる・涙／逆に、話し続けて止まらない
食事・就寝	偏食、音や匂いで食べられない／不眠、ホームシック、不安の爆発

2 崩れる前の「予兆サイン」に気づく

- そわそわが増える
- 手が止まる
- 表情が固くなる
- 声が大きくなる
- その場を離れようとする
- 耳をふさぐ

3 事前の備え （これだけで全場面がラクになります）

- ① 静かな退避場所を1つ決めておく　② 役割と居場所を先に決めておく
- ③ 1日の見通しを、絵や文字で共有しておく　④ 大きな音は、必ず予告する

【最重要】パニック・メルトダウンが起きたときの初動

心の理解も、進学も。 MICHIBIKI

叫ぶ・暴れる・泣き崩れる状態は、反抗ではなく「困っています」というサインです。

1 まず知っておきたいこと

理想は、予兆の段階（表情が固まる・声が大きくなる・落ち着かない・その場を離れようとする）で、早めに静かな場所へ移すことです。

2 やってはいけないこと

- ✕ 叱る
- ✕ 問い詰める
- ✕ 正論を説く
- ✕ 大勢で囲む
- ✕ 無理に抱えて連れ出す
- ✕ 「なんでできないの」と責める

これらは火に油を注ぎ、状況を悪化させます。

3 初動は4ステップ

① 周りの子を遠ざけて、安全を確保する

② 対応する大人は1人だけにする（大勢で囲まない）

③ しゃがんで目線を下げ、かける言葉は最小限にする

④ 落ち着くまで、静かに待つ（触れるのは本人が落ち着いてから）

4 スタッフのみなさんへ

- 一人で抱え込まないでください。
- 無理に「直そう」「言うことを聞かせよう」としなくて大丈夫です。
- 長くなりそうなら、チームで交代してください。

皆さんが落ち着いていることが、子どもの安心のいちばんの土台になります。

今日のまとめ

① 発達障害は「怠け」ではなく「特性」

② 関わりの3原則は、受容・合意・見える化

③ 各場面で大切なのは「安全な大人」であること

④ 起きてから慌てるより、先に予測して備える

目標は、実験を完璧にやらせることではありません。その子が「楽しかった」「またやりたい」と、小さな自信をひとつ持って帰ることです。

青空サイエンス教室　現場用チェックリスト

心の理解も、進学も。 MICHIBIKI

発達特性のある子どもと、安心してよい2日間を過ごすために

いちばん大事：発達特性は「本人の努力不足」ではなく、**「環境との噛み合わせ」**の問題

関わりの3原則

① 押し付けない（受容）
こちらの当たり前・固定観念をいったん置く

② 対話で合意する
「どうする？」で共通認識をつくる

③ 見える化（見通し）
できれば予定・手順・終わりを見える形にする

1. 基本の関わり方

- [ ] まず受け止める（否定から入らない）
- [ ] 指示は短く、1つずつ伝える
- [ ] 「どうする？」と本人と合意して進める
- [ ] できれば見通しを見える形にする

2. 困りやすい場面での対応

- [ ] 待つ場面は「あと何人」「あと何分」を伝える
- [ ] 大きな音・変更・移動は事前に予告する
- [ ] 疲れ・暑さ・感覚のしんどさは休憩を優先する
- [ ] 完成度より「参加できた」「できた」を拾う

3. 崩れそう・崩れたとき

- [ ] 予兆サイン（そわそわ、手が止まる、耳をふさぐ等）を見たら早めに休憩
- [ ] パニック時は「安全確保 → 大人1人 → 言葉少なく → 落ち着くまで待つ」

NG：叱る ／ 問い詰める ／ 大勢で囲む ／ 無理に抱える

目標は、完璧にやらせることではなく、「楽しかった」「またやりたい」を持って帰ってもらうこと。